



Postgres Enterprise Manager

リリース **7.16**

PEM BART Management Guide

2020 年 10 月 10 日

目次

第 1 章	BART サーバーの管理	3
1.1	前提条件	4
1.2	BART サーバーの構成	5
1.3	BART サーバーとデータベースサーバーの関連付け	8
1.4	PEM ダッシュボードでの BART サーバーの詳細の表示	12
1.5	BART バックアップのスケジュール	14
1.6	BART バックアップの復元	17
第 2 章	結論	21
索引		23

このガイドでは、PostgresEnterpriseManager™ (PEM) Web インターフェイスに組み込まれているダイアログについて説明します。このダイアログにより、BART の監視と管理が容易になります。

このドキュメントでは、PostgreSQL または EDBPostgresAdvancedServer データベースを意味する *Postgres* を使用しています。

第 1 章

BART サーバーの管理

PostgresEnterpriseManager (PEM) は、PostgreSQL および AdvancedServer データベースサーバーを管理、監視、およびチューニングする際に、データベース管理者、システム設計者、およびパフォーマンスアナリストを支援するように設計されています。

EDB バックアップおよび回復ツール (BART) は、複数のローカルまたはリモートの EDBPostgresAdvancedServer および PostgreSQL データベースサーバーのバックアップおよび回復管理を簡素化する管理ユーティリティです。BART の詳細については、EDBWeb サイトにアクセスしてください。

<https://www.enterprisedb.com/enterprise-postgres/edb-postgres-backup-and-recovery-tool>

PEM バージョン 7.10 以降では、PEM コンソールを介して BART サーバーを管理できます。PEM は、BART サーバーを管理し、PEM コンソールからすべての BART 操作を実行できるユーザーフレンドリーなインターフェイスを提供します。

1.1 前提条件

- BART サーバーを PEM コンソールに追加する前に、BART ホストに BART を手動でインストールして構成する必要があります。BART のインストールと設定の詳細については、[BART インストールガイド](https://www.enterprisedb.com/edb-docs) <<https://www.enterprisedb.com/edb-docs>> を参照してください。

注釈: PEM を BART と統合する際、PEM エージェントは BART に必要なバックアップディレクトリを作成し、ディレクトリの所有権と権限が正しいことを確認します。

- データベースサーバーを BART サーバーに関連付ける前に、データベースサーバーと BART サーバーに SSH をインストールする必要があります。
- BART バックアップを復元する前に、ターゲットサーバーに BART、PEM エージェント、および SSH をインストールする必要があります。SSH は、復元に使用する予定の BART サーバーにもインストールする必要があります。
- レプリカデータベースサーバーのバックアップを取るには、BART で管理するデータベースサーバーに最新の `*pg_basebackup*` ユーティリティがインストールされていることを確認する必要があります。

1.2 BART サーバーの構成

Create-BART server ダイアログを使用して、既存の BART サーバーを PEM サーバーに登録できます。ダイアログにアクセスするには、BART Servers ノードを右クリックして Create-BART Server を選択します。

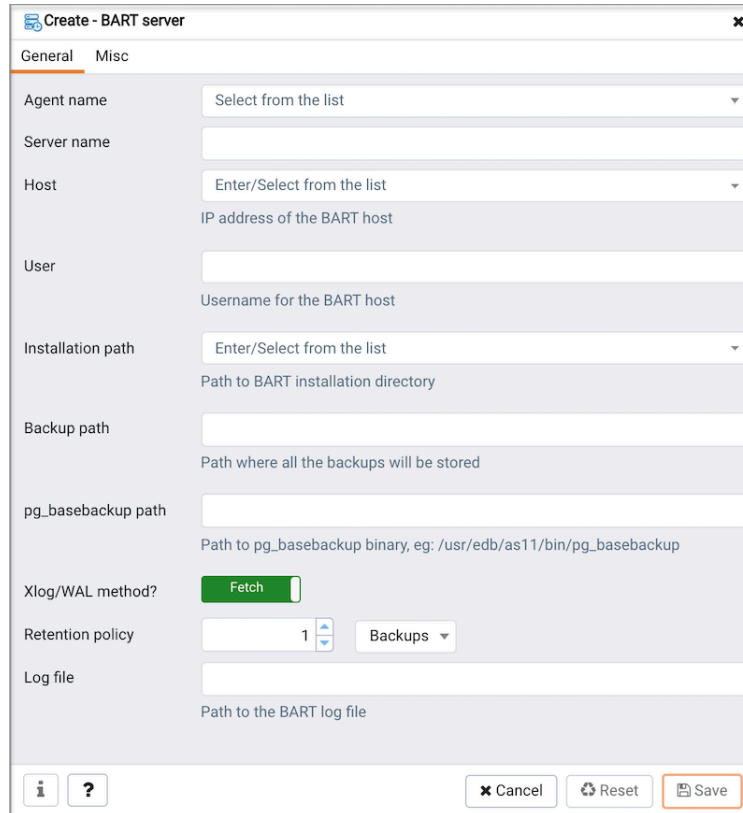


図 1 [BARTサーバーの作成] ダイアログ-[全般] タブ

General タブのフィールドを使用して、BARTServer の一般的なプロパティを説明します。

- Agent Name フィールドを使用して、BART サーバーに使用するエージェントを選択します。BART でサポートされている PEM エージェントのみがドロップダウンリストにリストされます。
- Server Name フィールドを使用して、サーバーのわかりやすい名前を指定します。指定された名前は、ブラウザツリーでサーバーを識別します。
- Host フィールドを使用して、BART がインストールされているホストまたはエージェントの IP アドレスを指定します。
- User フィールドを使用して、すべての BART 操作の実行に使用されるユーザー名を指定します。enterprisedb (AdvancedServer の場合) または postgres (PostgreSQL の場合) データベースユーザーアカウントを使用するか、新しい BART ユーザーアカウントを作成できます。このユーザーは、BART バックアップカタログディレクトリを所有するオペレーティングシステムユーザーである必要があります。
- Installation path フィールドを使用して、BART がホストまたは BART サーバーにインストールさ

れているディレクトリパスを指定します。

- Backup path フィールドを使用して、すべての BART バックアップとアーカイブされた WAL ファイルが保存されるファイルシステムの親ディレクトリを指定します。
- pg_basebackup_path フィールドを使用して、pg_basebackup ユーティリティへのパスを指定します。
- Xlog/WAL method フィールドを使用して、pg_basebackup の実行中にトランザクションログを収集する方法を指定します。デフォルトのオプションは fetch です; バックアップの完了後にトランザクションログファイルが収集されることを指定します。Xlog メソッドを stream に設定して、完全ベースバックアップの作成と並行してトランザクションログをストリーミングします。ストリーミングを使用する場合、影響を受けるデータベースサーバーの postgresql.conf ファイルの max_wal_senders 構成パラメーターは、トランザクションログのストリーミング用の追加セッションを考慮する必要があります (設定は 2 以上である必要があります)。

Xlog メソッドの詳細については、以下を参照してください。

<https://www.postgresql.org/docs/current/app-pgbasebackup.html>

- Retention policy フィールドを使用して、バックアップの保持ポリシーを指定します。これにより、アクティブなバックアップが廃止としてマークされ、したがって削除の候補となるタイミングが決定されます。保持ポリシーは、バックアップの数または期間 (日、週、または月) で指定できます。
- Log file フィールドを使用して、BART ログファイルへのパスを指定します。これはオプションのフィールドです。

Misc タブのフィールドを使用して、BARTServer のバックアップ関連のプロパティを説明します。

- Scanner log file フィールドを使用して、Xlog/WAL スキャナーログファイルへのパスを指定します。これはオプションのフィールドです。パスを指定しない場合、BART は WAL スキャナーログファイルを作成しません。
- Socket dir path フィールドを使用して、すべての BART ソケットが保存されるソケットディレクトリへのパスを指定します。デフォルトのディレクトリは /tmp です。このパラメーターは、BART バージョン 2.5.2 以降から追加されます。
- WAL compression? スイッチを使用して、アーカイブされた Xlog/WAL ファイルを Gzip 形式で圧縮するかどうかを指定します。WAL 圧縮を有効にするには、gzip 圧縮プログラムが BART ユーザーアカウントの PATH に存在する必要があります。増分バックアップを取得する必要があるデータベースサーバーでは、WAL 圧縮設定を有効にしないでください。
- Copy WALs during restore? フィールドを使用して、RESTORE 操作を呼び出すときにアーカイブされた WAL ファイルを収集する方法を指定します。データベースサーバーのアーカイブを復元する前に、アーカイブされた WAL ファイルを BART バックアップカタログから restore_path/archived_wals ディレクトリにコピーするには、有効に設定します。disabled に設定すると、データベースサーバーの

Create - BART server

General Misc

Scanner log file
Path to the Xlog/WAL scanner log file

Socket dir path
Path to the socket directory where all BART sockets will be stored. The default directory is /tmp. This parameter is added from BART version 2.5.2 onwards.

WAL compression? Disabled
Compress the archived Xlog/WAL files in gzip format (The gzip must be in the BART user account's PATH)

Copy Xlog/WAL during restore? Disabled
Copy the archived Xlog/WAL files from the BART backup catalog to the restore_path/archived_wals directory prior to the database server archive recovery

Thread count 1
Number of threads used to copy blocks

Batch size 49142
Number of blocks of memory used for copying the modified blocks, the default value is 49412

Scan interval 1
Number of seconds before forcing a scan of the Xlog/WAL files, default value 0 means no brute-force scanning will be started

MBM scan timeout 20
Number of seconds to wait for MBM file before timing out, applicable only for incremental backup

Workers 1
Number of parallel worker processes required to stream the modified blocks of an incremental backups to the restore host.

? Cancel Reset Save

図 2 [BART サーバーの作成] ダイアログ-[その他] タブ

アーカイブのリカバリ中に、アーカイブされた WAL ファイルを BART バックアップカタログから直接取得します。このオプションを有効にすると、復元操作中の時間を節約できます。

- Thread count フィールドを使用して、ブロックまたはデータファイルをデータベースサーバーから BART バックアップカタログにコピーするためのワーカースレッドの数を指定します。pg_basebackup ユーティリティを使用してバックアップを取得する場合は、1 の 1 を指定します。
- Batch size フィールドを使用して、変更されたブロックのコピーに使用されるメモリのブロック数を指定します。これは、増分バックアップにのみ適用されます。
- Scan interval フィールドを使用して、WAL スキャナーが新しい WAL ファイルをスキャンするまでの秒数を指定します。
- MBM scan timeout フィールドを使用して、タイムアウトするまで MBM ファイルを待機する秒数を指定します。これは、増分バックアップにのみ適用されます。
- Workers フィールドを使用して、増分バックアップの変更されたブロックを復元ホストにストリーミングするために必要な並列ワーカープロセスの数を指定します。

1.3 BART サーバーとデータベースサーバーの関連付け

BART サーバーを構成したら、バックアップを BART で管理するデータベースサーバーに関連付ける必要があります。次のいずれかを実行できます。

- PEM コンソールを使用して、既存の監視対象データベースサーバーのプロパティを変更し、新しく構成された BART サーバーにマップします。
- PEM コンソールを使用して、新しい監視対象データベースサーバーを作成し、新しく構成された BART サーバーにマップします。

BART サーバーを新しい PEM データベースサーバーにマップするには、PEM Server Directory ノードを右クリックし、`Create > Server`` を選択します。すべての汎用タブに詳細を入力してから、BART タブに BART 固有の詳細を入力します。

The screenshot shows the 'Postgres Enterprise Manager Server' configuration window with the 'BART' tab selected. The 'General' sub-tab is active. A message at the top states: 'For BART configuration, you need to install a PEM agent on the database server if Remote Monitoring is disabled for the agent. BART supports database server version 9.5 and above.' The form includes the following fields and options:

- BART server:** A dropdown menu with the text 'Select from the list'.
- Server name:** A text input field with a description: 'Database server name that uniquely identifies an entry for database server in the server section of the configuration file'.
- Backup name:** A text input field with a description: 'Template for backup name (may include %year, %month, %day, %hour, %minute, and %second)'.
- Host address:** A text input field with a description: 'IP address of the database server to be configured for backup'.
- Port:** A text input field.
- User:** A text input field.
- Password:** A text input field.
- Cluster owner:** A text input field with a description: 'Operating system user that owns the database cluster'.
- Override archive command?:** A radio button set with 'No' selected. Description: 'Overrides the archive_command settings in the postgresql.conf file.'
- Archive command:** A text input field with a description: 'Parameters for archive command (%p, %h, %a, %f). Ensure to bind a PEM agent and provide Service ID to reload or restart the database server.'
- Allow incremental backup?:** A radio button set with 'No' selected.
- Setup passwordless SSH?:** A radio button set with 'No' selected. Description: 'Ensure to bind a PEM agent to setup passwordless SSH authentication between BART host and database server.'

At the bottom right, there are three buttons: 'Cancel', 'Reset', and 'Save' (which is highlighted in orange).

図 3 [サーバーの作成] ダイアログ (BART-[一般] タブ)

General タブのフィールドを使用して、PEM サーバーにマップする BART サーバーの一般的なプロパティを説明します。

- BART server フィールドを使用して、BART サーバー名を選択します。PEM コンソールで設定されたすべての BART サーバーがこのドロップダウンリストにリストされます。
- Server name フィールドを使用して、BART サーバーを使用してバックアップするデータベースサーバーの名前を指定します。この名前は、BART 構成ファイルに保存されます。

- Description フィールドを使用して、データベースサーバーの説明を指定します。
- データベースサーバーのバックアップに割り当てるユーザー定義名のテンプレートを指定するには、Backup name フィールドを使用します。バックアップ名テンプレートを指定しない場合、バックアップは、BART に割り当てられた整数のバックアップ識別子によってのみ、BART サブコマンドで参照できます。
- Host address フィールドを使用して、バックアップ用に構成するデータベースサーバーの IP アドレスを指定します。
- Port フィールドを使用して、バックアップするデータベースに使用するポートを指定します。
- User フィールドを使用して、PEM コンソールから BART を使用してバックアップするデータベースのユーザーを指定します。このデータベースサーバーの増分バックアップを有効にする場合、ユーザーはスーパーユーザーである必要があります。
- Password フィールドを使用して、バックアップするデータベースのユーザーのパスワードを指定します。
- Cluster Owner フィールドを使用して、データベースクラスターを所有する Linux オペレーティングシステムのユーザーアカウントを指定します。これは通常、Oracle データベース互換モードでインストールされた AdvancedServer データベースクラスターの場合は enterprisedb、PostgreSQL データベース互換モードでインストールされた PostgreSQL データベースクラスターおよび AdvancedServer データベースクラスターの場合は postgres です。
- Archive command フィールドを使用して、bart.cfg ファイルで使用されるアーカイブコマンド文字列の形式を指定します。Archive コマンドに入力すると、データベースサーバーの Postgresql.conf ファイルが上書きされます。サーバーが追加されると、データベースサーバーが再起動されるか、データベース構成が再読み込みされます。
- アーカイブされた WAL ファイルを保存するには、Archive path フィールドを使用します。デフォルトの場所は BART バックアップカタログです。このパラメーターは、BART バージョン 2.5.2 以降から追加されます。
- Allow incremental backup? スイッチを使用して、このデータベースサーバーで増分バックアップを有効にするかどうかを指定します。
- Setup passwordless SSH? スイッチを使用して、データベースサーバーと BART サーバー間でパスワードなしのログインを許可する SSH 証明書を作成するかどうかを指定します。パスワードレス SSH 認証をセットアップする前に、PEM エージェントをバインドしてください。パスワードなしの SSH は、PEM エージェントによってリモートで監視されているデータベースサーバーでは機能しません。

Misc タブのフィールドを使用して、BARTServer のその他のプロパティを説明します。

- Override default configuration? スイッチを使用して、特定のデータベースサーバー構成で BART サーバー構成を上書きするかどうかを指定します。
- Xlog メソッドを使用して、pg_basebackup の実行中にトランザクションログを収集する方法を指定します。

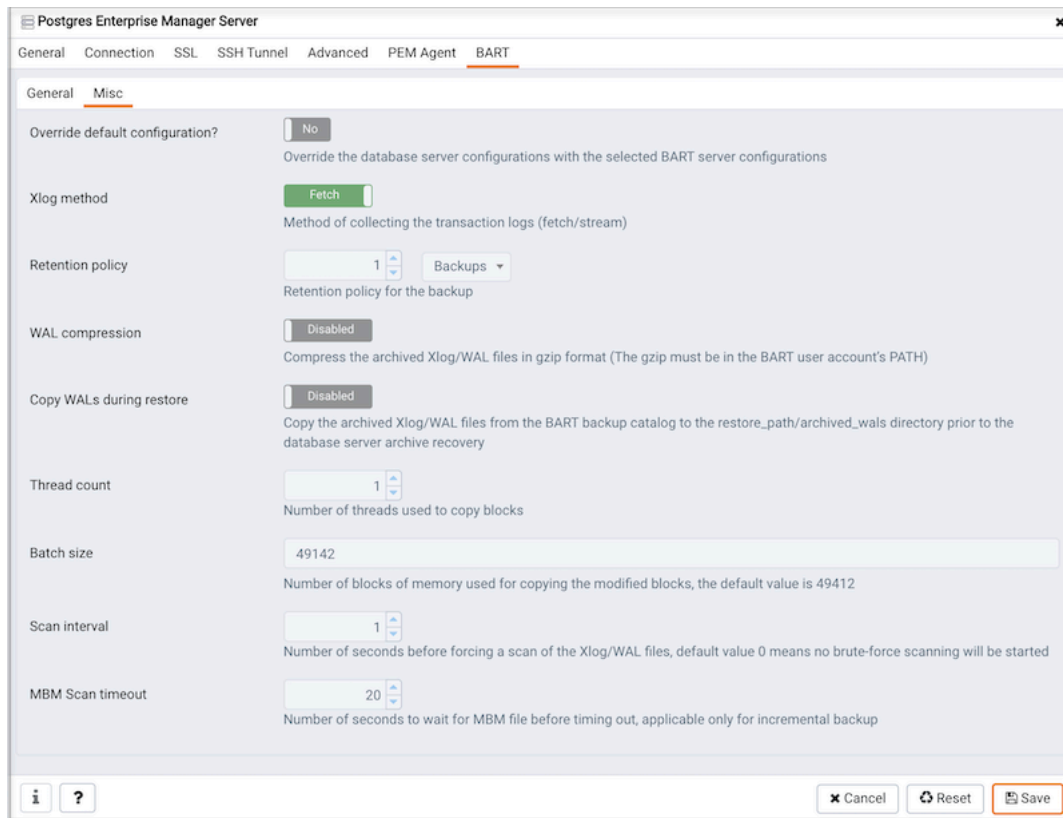


図4 [作成-サーバー] ダイアログ (BART-[その他] タブ)

- Retention policy フィールドを使用して、バックアップの保持ポリシーを指定します。これにより、アクティブなバックアップが廃止としてマークされ、したがって削除の候補となるタイミングが決定されます。保持ポリシーは、バックアップの数または期間（日、週、または月）で指定できます。
- WAL compression スイッチを使用して、アーカイブされた Xlog/WAL ファイルを Gzip 形式で圧縮するかどうかを指定します。WAL 圧縮を有効にするには、gzip 圧縮プログラムが BART ユーザーアカウントの PATH に存在する必要があります。増分バックアップを取得する必要があるデータベースサーバーでは、wal_compression 設定を有効にしないでください。
- Copy WALs during restore フィールドを使用して、RESTORE 操作を呼び出すときにアーカイブされた WAL ファイルを収集する方法を指定します。データベースサーバーのアーカイブリカバリの前に、アーカイブされた WAL ファイルを BART バックアップカタログから<restore_path>/archived_wals ディレクトリにコピーするには、有効に設定します。無効に設定すると、データベースサーバーのアーカイブリカバリ中に BART バックアップカタログからアーカイブされた WAL ファイルを直接取得します。
- Thread count フィールドを使用して、ブロックをコピーするスレッドの数を指定します。pg_basebackup ユーティリティでバックアップを取りたい場合は、1 を 1 に設定する必要があります。
- Batch size フィールドを使用して、変更されたブロックのコピーに使用されるメモリのブロック数を指定します。これは増分バックアップにのみ適用されます。

- `Scan interval` フィールドを使用して、WAL スキャナーが新しい WAL ファイルをスキャンするまでの秒数を指定します。
- `MBM scan timeout` フィールドを使用して、タイムアウトになるまで MBM ファイルを待機する秒数を指定します。これは増分バックアップにのみ適用されます。
- `Workers` フィールドを使用して、増分バックアップの変更されたブロックを復元ホストにストリーミングするために必要な並列ワーカプロセスの数を指定します。

1.4 PEM ダッシュボードでの BART サーバーの詳細の表示

BART サーバーをデータベースサーバーに関連付けた後、PEM ダッシュボードでそのサーバーのバックアップと復元の詳細を確認できます。ダッシュボードにリストされているバックアップの復元や削除などの操作を実行することもできます。

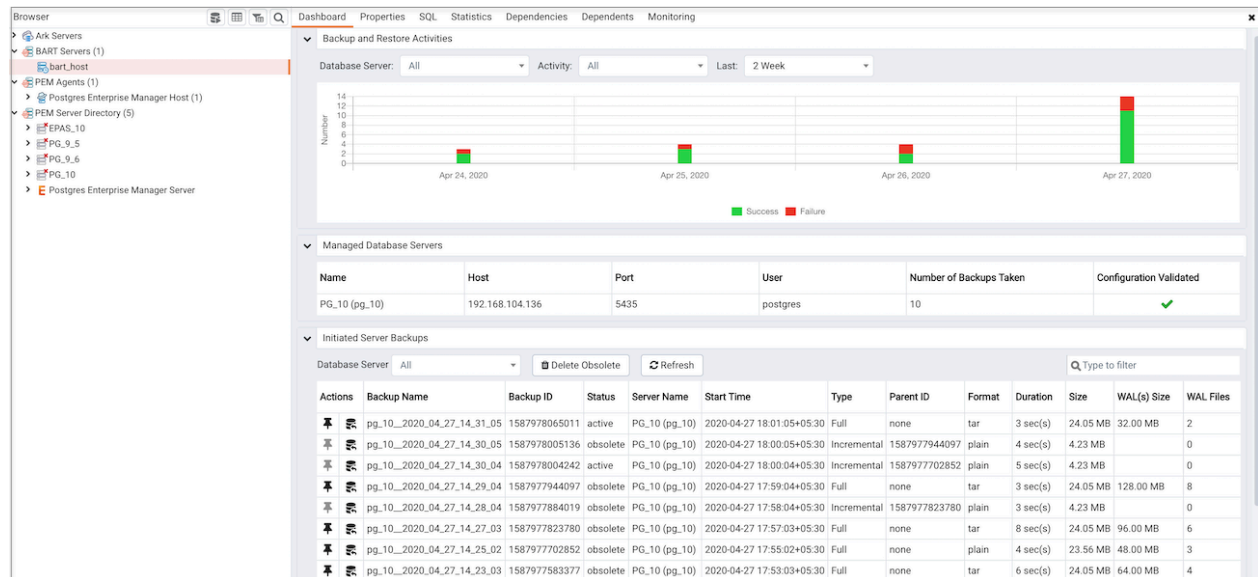


図 5 BART バックアップダッシュボード

監視対象の BART サーバーを選択すると、関連するすべてのデータベースサーバーの詳細と、そのバックアップおよび復元アクティビティが、Backup and Restore Activities パネルのダッシュボードにグラフとして表示されます。フィルタボックスで指定された条件（データベースサーバー、アクティビティ、または期間）でバックアップのリストをフィルタリングできます。

Managed Database servers パネルには、その特定の BART サーバーによって管理されているすべてのデータベースサーバーのリストと、それらの高レベルの詳細が表示されます。

Initiated Server Backups パネルには、その特定の BART サーバーによって管理されているデータベースサーバーのすべてのバックアップのリストが表示されます。リストをフィルタリングして、特定のデータベースサーバーの詳細を表示できます。また、フィルターボックスで指定した条件でリストをフィルター処理することもできます。通常、このフィルターは、列の下にリストされている任意の種類の文字列値（日付、時刻、サイズを除く）で機能します。たとえば、tar と入力してリストをフィルタリングし、tar 形式のバックアップのみを表示できます。

表示されるバックアップの詳細には、Backup Name、Backup ID、Status、Server Name、Start Time、Type、Parent ID、Format が含まれます。Duration、および Size。Status 列は、In Progress、Active、Keep、または Obsolete のいずれかのバックアップのステータスを示します。

A backup is marked as Obsolete when the backup retention period has passed or if the number of retained backups (specified as the retention policy of the BART server) is met. If you want to make an exception so that a particular

backup does not get marked as `Obsolete` even after the expiration of the retention policy, mark that particular backup as `Keep`. Similarly, if you mark a particular backup as `NoKeep`, the backup is re-evaluated to determine if its status should be changed back to `Obsolete` based on the current retention policy.

A pin in the first column under *Actions* indicates that a backup can be marked as *Keep* by clicking the pin; while an inverted pin indicates that the backup can be marked as *NoKeep*. The second column under *Actions* displays the *Restore* icon; you can perform the *Restore* operation by clicking on the icon.

Delete `Obsolete` ボタンをクリックして、すべての `Obsolete` バックアップを削除できます。Refresh ボタンをクリックして、バックアップのリストを更新することもできます。

1.5 BART バックアップのスケジュール

バックアップを作成または管理するには、Tools メニューから Schedule Backup を選択します。ダイアログヘッダーには、バックアップに関する一般的な実行情報が表示されます。

- Logs
- Last result
- Database server
- Last backup name
- Started on
- Type
- Parent
- Format
- Verify checksum?
- Use pg_basebackup?

[追加] アイコン (+) をクリックして、スケジュールされたバックアップに関する情報を追加します。スケジュール定義ダイアログでバックアップの詳細を入力します。

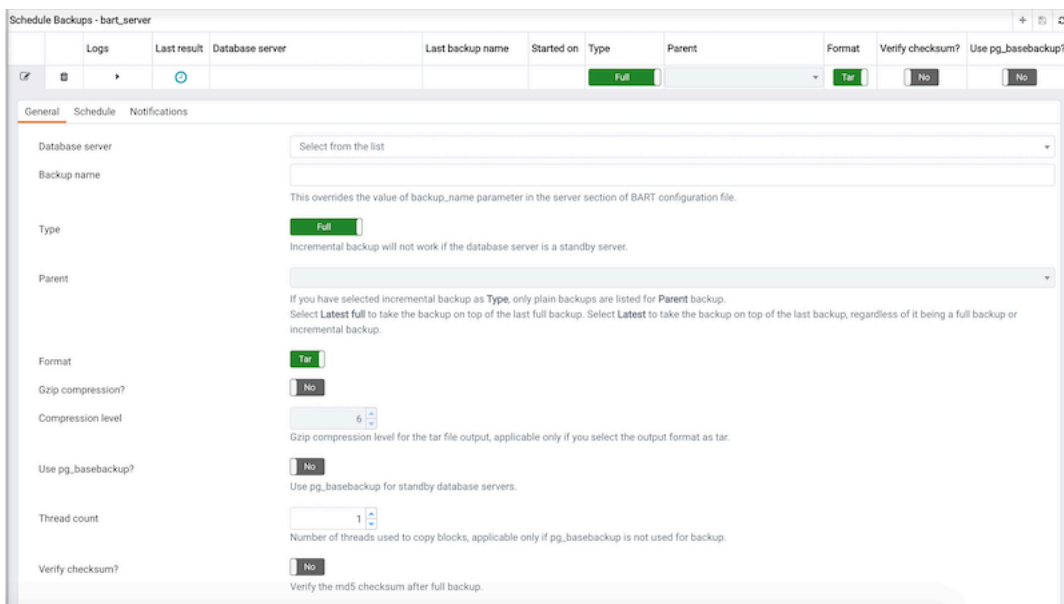


図 6 バックアップスケジュールダイアログ-一般オプション

General タブのフィールドを使用して、バックアップの一般的なプロパティを説明します。

- Database Server フィールドを使用して、バックアップするターゲットデータベースサーバーを指定します。
- Backup name を使用して、バックアップのユーザー定義名を指定します。
- バックアップタイプ I を指定するには、Backup type スイッチを使用します。完全バックアップまたは増分バックアップ。
- 増分バックアップの親バックアップの ID を選択するには、Parent backup フィールドを使用します。この親バックアップは、完全バックアップでも増分バックアップでもかまいません。
- バックアップの出力形式、つまりプレーンテキストまたは tar を指定するには、Format switch を使用します。増分バックアップの場合、プレーンテキストのみを選択する必要があります。
- Gzip compression スイッチを使用して、バックアップで gzip 圧縮を有効にするかどうかを指定します。このオプションは、tar 形式にのみ適用されます。
- Compression level フィールドを使用して、tar ファイル出力の gzip 圧縮レベルを指定します。
- Thread count フィールドを使用して、ブロックをコピーするスレッドの数を指定します。
- MBM scan timeout フィールドを使用して、タイムアウトするまでに必要な MBM ファイルを待機する秒数を指定します。
- アプリケーションにバックアップのチェックサムを検証させるかどうかを指定するには、Verify checksum フィールドを使用します。
- pg_basebackup フィールドを使用して、pg_basebackup ユーティリティをバックアップに使用するかどうかを指定します。通常、pg_basebackup ユーティリティは、増分バックアップには使用できないため、レプリカサーバーのバックアップにのみ使用されます。

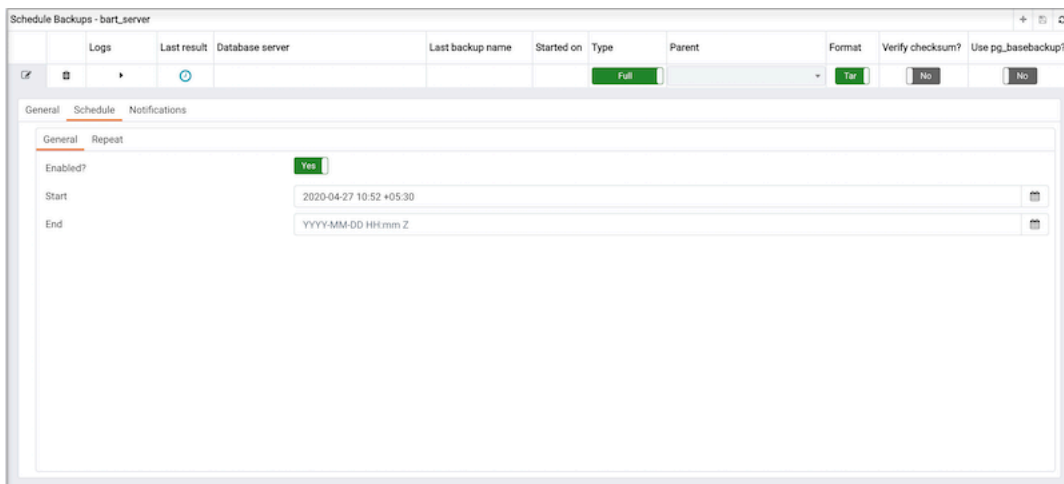


図7 [バックアップのスケジュール] ダイアログ- (スケジュール:一般)

Schedule タブでバックアップのスケジュールの詳細を指定します:

- Enabled? スイッチを使用して、スケジュールを有効にする（ Yes ）か無効にする（ No ）かを指定します。
- Start フィールドのカレンダーセレクトターを使用して、スケジュールの開始日時を指定します。
- End フィールドのカレンダーセレクトターを使用して、スケジュールの終了日時を指定します。

図 8 バックアップのスケジュールダイアログ- (スケジュール:繰り返し)

Repeat タブのフィールドを使用して、cron スタイル形式でスケジュールに関する詳細を指定します。スケジュールは、Repeat タブで選択された各日付または時間要素で実行されます。フィールド内をクリックして、そのフィールドの有効な値のリストを開きます。特定の値をクリックして、その値をフィールドで選択した値のリストに追加します。フィールドから値をクリアするには、フィールドの右側にある X をクリックします。

Days ボックス内のフィールドを使用して、スケジュールを実行する日を指定します。

- Week Days フィールドを使用して、スケジュールを実行する日を選択します。
- Month Days フィールドを使用して、スケジュールを実行する日数を選択します。最終日を指定して、日付に関係なく、月の最終日にスケジュールを実行することを示します。
- Months フィールドを使用して、スケジュールを実行する月を選択します。

Times ボックス内のフィールドを使用して、スケジュールを実行する時間を指定します。

- Hours フィールドを使用して、スケジュールを実行する時間を選択します。
- Minutes フィールドを使用して、スケジュールを実行する分を選択します。

Notifications タブのフィールドを使用して、スケジュールされたバックアップの電子メール通知設定を指定します。

- Send the notifications フィールドを使用して、電子メール通知をいつ送信するかを指定します。
- Email group フィールドを使用して、電子メール通知を受信する電子メールグループを指定します。

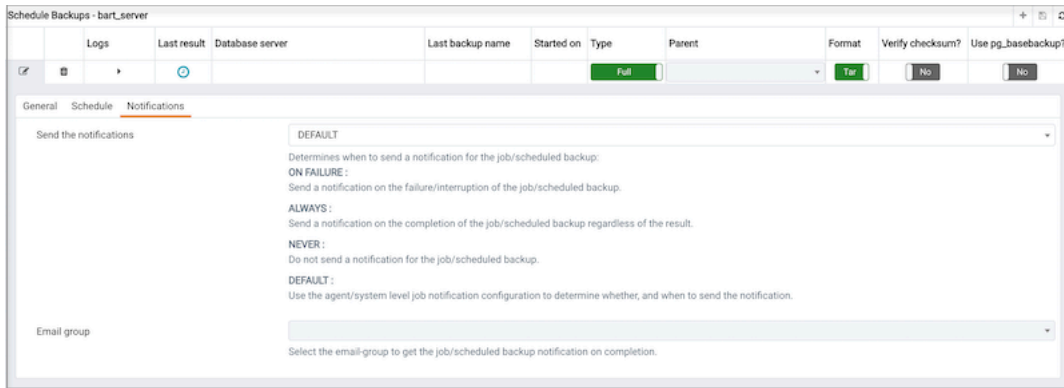


図9 [バックアップのスケジュール] ダイアログ- (スケジュール:通知)

1.6 BART バックアップの復元

ターゲットリモートホスト上の **BART** サーバーを使用して、以前に作成したバックアップを復元できます。特定の **BART** サーバーを選択すると、関連するすべてのバックアップがダッシュボードの **Initiated Server Backups** の下に一覧表示されます。

バックアップを復元するには、復元するバックアップの横にある **Restore** アイコンをクリックします。

Restore Backup ダイアログで、**General** タブのフィールドに情報を入力します:

- **Target agent** フィールド名を使用して、バックアップを復元するエージェントの名前を指定します。
- **Remote user** フィールドを使用して、バックアップを復元するリモートデータベースサーバーホスト上の使用アカウントを指定します。
- **Remote host address** フィールドを使用して、バックアップを復元するリモートホストの **IP** アドレスを指定します。
- **SSH port** フィールドを使用して、バックアップの復元に使用する **SSH** ポートを指定します。
- **Restore path** フィールドを使用して、バックアップを復元するパスを指定します。
- **Number of workers** フィールドを使用して、並行して実行するプロセスを指定して、増分バックアップの変更されたブロックを復元場所にストリーミングします。
- **Setup passwordless SSH?** スイッチを使用して、**SSH** 証明書を作成して、復元のために **BART** サーバーとターゲットホスト間でパスワードなしのログインを許可するかどうかを指定します。

Advanced タブで、バックアップを復元するための高度なオプションの設定を指定します:

- **Copy WALs to restore path?** スイッチを使用して、**WAL** ファイルを復元パスにコピーするかどうかを指定します。
- **Point in time recovery** スイッチを使用して、ポイントインタイムリカバリが必要かどうかを指定します。

図 10 バックアップの復元ダイアログ一般

- Timeline ID フィールドを使用して、ポイントインタイムリカバリのためにアーカイブされた WAL ファイルを再生するために使用されるタイムライン ID を指定します。
- Transaction ID (XID) フィールドを使用して、ポイントインタイムリカバリのトランザクション ID を指定します。
- 復元に使用するタイムスタンプに Timestamp フィールドを使用します。

注釈: ポイントインタイムリカバリには、Transaction ID または Timestamp のいずれかを指定できます。

Notifications タブのフィールドを使用して、バックアップを復元するための電子メール通知設定を指定します。

- Send the notifications フィールドを使用して、電子メール通知をいつ送信するかを指定します。
- Email group フィールドを使用して、電子メール通知を受信する電子メールグループを指定します。

Restore Backup - pg_10_2020_04_27_14_21_01 (PG_10 (pg_10))

General Advanced Notifications

Copy WALs to restore path?

Point in time recovery?

Timeline ID

Integer identifier of the timeline to be used for replaying the archived WAL files for point-in-time recovery

Transaction ID (XID)

Integer identifier of the transaction ID that determines the transaction up to and including, which point-in-time recovery encompasses

Timestamp

Timestamp that determines the point in time up to and including, which point-in-time recovery encompasses

Agent name must be specified

図 11 バックアップの復元ダイアログ-詳細設定

Restore Backup - pg_10_2020_04_27_14_21_01 (PG_10 (pg_10))

General Advanced **Notifications**

Send the notifications DEFAULT

Determines when to send a notification for the job:

ON FAILURE :
Send a notification on the failure/interruption of the job.

ALWAYS :
Send a notification on the completion of the job regardless of the result.

NEVER :
Do not send a notification for the job.

DEFAULT :
Use the agent/system level job notification configuration to determine whether, and when to send the notification.

Email group

Select the email-group to get the job/scheduled-task notification on completion.

Agent name must be specified

? Cancel Restore

図 12 バックアップの復元ダイアログ-通知

第 2 章

結論

EDBPostgresEnterpriseManagerBART 管理機能ガイド

著作権 ©2007-2020EnterpriseDBCorporation。無断複写・転載を禁じます。

EnterpriseDB®Corporation34CrosbyDrive、Suite201、Bedford、MA01730、USA

T+17813573390F+19784671307Einfo@enterprisedb.comwww.enterprisedb.com

- EDB および PostgresEnterpriseManager は、EnterpriseDBCorporation の登録商標です。EDB および EDB-Postgres は、EnterpriseDBCorporation の商標です。Oracle は、Oracle、Inc の登録商標です。その他の商標は、それぞれの所有者の商標です。
- EDB は、存在する場合、EDBPostgresEnterpriseManager のログオン UI の設計、コーディングのベストプラクティスの確立、レビュー、入力検証を検証します。EDB は追加の入力コンポーネントに対して同じアプローチに従いますが、製品の性質上、限定された検証が可能な信頼できるユーザーによって入力および送信されるフリーフォーム SQL、WMI またはその他の文字列を受け入れる必要がある場合があります。このような場合、ユーザーが誤った入力や危険な入力を禁止することはできません。
- EDB は、将来、認証された信頼できるユーザーからのフリーフォーム SQL、WMI またはその他の潜在的に危険な入力を受け入れる製品に機能を追加する権利を留保しますが、そのような機能はすべて、可能な限り最小のリスクを提供するように設計およびテストされます可能であれば、スーパーユーザーまたは同等の特権が必要です。
- EDB は、すべての潜在的な脅威を予測できることを保証しません。したがって、すべての潜在的な脆弱性が対処または検討されたことをプロセスが完全に保証することはできません。

索引

Associating the BART Server with a Database Server, [8](#)

Configuring a BART Server, [5](#)

Managing a BART Server, [3](#)

Prerequisites, [4](#)

Restoring BART Backups, [17](#)

Scheduling BART Backups, [14](#)

Viewing the BART Server Details on a PEM Dashboard, [12](#)

結論, [21](#)